わかつく 責任編集

特定非営利活動法人
わかやま NPO センター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL073-424-2223 /FAX073-423-8355
e-mail info@wnc.jp URL http://www.wnc.jp/
制作 / 編集　志場久起

和歌山を 創る新聞 わかつく

Vol.70

隔週金曜掲載

◆今号の特集はわかやま NPO センターへのインターンの学生のみなさんが取材・執筆しました。

森田 大河さん（和歌山大学）
中川 晃伸さん（近畿大学）
西谷 典香さん（四天王寺大学）
中家 詩織さん（関西外国語大学）
坂田 昇也さん（桃山学院大学）

～地域の人々の笑顔が見たくて～ 合同会社 日向屋 （ひなたや）

2012 年 7 月に設立された「合同会社日向屋」は、買い物で困っている和歌山県内のお年寄りや過疎地の方々に障害福祉サービス事業所で作られた商品を提供することから始まりました。その取り組みをうかがいました。

（上） 日向屋号とスタッフのみなさん
（左） 各地域を回る「日向屋号」には鮮やかなイラストがペイント
（下） 日向屋店舗内の様子

県内北部で移動販売

「手のひらを太陽に」の誰もが知っている元気になれるこの歌が聴こえてくると、「日向屋が来た！」とお年寄りや多くの方々が喜んで集まってくれます。

主に移動販売をメインとし、スーパー等、商業施設の少ない土地に住む人々や、高齢者を対象として地域周辺を周っています。移動販売のコースは有田～吉備コース、上湯川～金屋町コース、紀の川駅梶取周辺コースがあり、週4日移動販売が行われています。取り扱っている商品は、お米、野菜、パン、お菓子など、さらにこれ以外の商品も注文があれば届けています。

お客さまとのつながり

「いろんな人に出会えて、いろんな話が聞けるから、楽しい」と女性スタッフは、笑顔で話されていました。日向屋のみなさんは、移動販売を通じて、地域の人たちとの会話を楽しみ、つながりを持つことを大切にされているそうです。彼らのこういった活動は、地域を見守る役割も同時に果たされています。

「笑顔の絶えない職場です」と楽しそうに話すスタッフのみなさん。接客、販売の経験も浅くはじめは苦労もしたけれど、みんなで助け合い、協力することで少しずつ成長しています。

日向屋の数ある商品の中でも、「バームクーヘン」は、すっきりした甘さで、紀州の食材にこだわり紀州梅卵やみかんハチミツを使った和歌山・地元のこだわりブランドにも認定されています。

今後、移動販売車を増やし、たくさんの人達に日向屋を知ってもらい、来てもらうためどうすれば良いのか、知恵を出し合い日々健闘しています。

それいけ！日向屋！

日向屋では、移動販売・店舗販売の他に印刷業務にも力を入れています。気軽に印刷を利用して頂ける試みとして、10部～500部の少部数の印刷や名刺作成も受け入れる態勢を形成し、印刷の事業化を目指しています。ビッグホエールの遊歩道沿いの閑静な住宅街の一角に、日向屋があります。これらの商品は、日向屋の店先でも売られています。スタッフの方達の素敵な笑顔を見に、日向屋、日向屋号へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

合同会社　日向屋
所在地　和歌山市北出島 1 丁目 2 番 18 号
連絡先　073-488-7758
URL　http://www.hinataya-shop.jp/
（ネット通販もあります）

人気商品のバウムクーヘン「キノネンリン　礎（いしずえ）」。紀州うめたまごやみかん蜂蜜を使った逸品。（画像はウェブサイトより）

みんなでつくる情報板

わかやまイベントボード

●いのちをつなぐ医療講演会
骨髄移植についてみなさんで考えましょう。
日時　9 月 7 日（土）
13:00 ～ 16:30
場所　和歌山県民文化会館小ホール
内容　講演「日本・アジア・世界の造血幹細胞移植情勢と造血幹細胞移植推進法」「骨髄バンクのあゆみと成長」、パネルディスカッションほか
入場料　無料
問い合わせ　和歌山血液疾患患者家族の会「ひこばえ」（073-492-2777）または和歌山県庁薬務課（073-441-2661）

●子ども・若者支援地域ネットワーク形成のための研修会
子育て研究・若者研究の第一人者による講義、学生の実践報告などを通じて学びます。
日時　9 月 8 日（日）
13:30 ～ 16:00
場所　和歌山ビッグ愛 9 階会議室
内容　講演「精神障がい者の地域生活支援」（和歌山信愛女子短大専任講師・御前由美子さん）など
参加費　無料
定員　50 名（事前申込み必要）
問い合わせ・申込み　和歌山信愛女子短大（073-479-3330）

●スポーツセミナー『夏バテと疲労回復方法』
夏バテとその解消法についてわかりやすく説明します。
開催日　9 月 14 日（土）
場所　フォルテワジマ 3F　多目的ホール
講師　吉松大樹さん（県立医大げんき開発研究所　研究員）
参加費　1000 円
定員　50 名
問い合わせ・申込み　わかやまスポーツ伝承館（073-423-2215）
備考　動きやすい服装、運動靴での参加を

●講演会「和歌山に在る大地の遺産』
南紀熊野ジオパーク構想について聞きます。
日時　9 月 19 日（木）
18:30 ～ 20:30
場所　和歌山 YMCA6 階ホール
講師　谷脇智和さん・田原敬治さん（和歌山県自然環境室）
参加費　1000 円（夕食弁当代・事前申込み必要）
問い合わせ・申込み　和歌山ワイズメンズクラブ・三木さん（073-426-5552）

このほかの情報もたくさん掲載！
「わかやまイベントボード」URL
PC 版　http://eventboard.shiminjuku.jp/
携帯電話版　http://eventboard.shiminjuku.jp/m/

地元力財団の設立を記念して実施した「わかやま地元力 AWARD2013」。
7 月 27 日に表彰式を開催し、採択団体の皆さんに今後の展望をお聞きしました。
今号から 5 回に渡りお届けします！　採択団体はこちらでご覧いただけます。http://jimotoryoku.jp/award/

JI-MO TIMES Vol.5

特定非営利活動法人和歌山盲ろう者友の会　事務局長 **瀬戸節子さん**

どのような「ほっけない」地元の課題に取り組んでいますか？

私たちは、目が見えない、耳が聞こえない障がいを併せ持つ「盲ろう者」の支援を行っています。一人でも多くの方に盲ろうという障がいがあること、その支援を行う友の会が和歌山にあることを知っていただきたいです。

盲ろう者が私たちと一緒に暮らしていくためには、通訳、介助が必要です。盲ろう者になった時期や障がいの程度によって、手話・手書き・点字・音声などコミュニケーションの方法は違いますが、目と耳になってくれる人がいれば外出や会議を行うこともできます。

和歌山県には約 300 名の盲ろう者がいると推定されていますが、現在私たちが支援できているのは 20 名程です。何も見えず何も聞こえないまま、ひとりぼっちで暮らしている盲ろう者の方にも支援を広げていくため、今年度は県内の自治体役場とも連携し、戸別訪問に取り組んでいきたいと考えています。

採択を機にどのような活動を展開していきますか？

当事者である盲ろう者のナマの声を届けること、支援いただける方と積極的にコミュニケーションを取ることが共感や寄付に繋がるということを学びました。

今年度すぐできることとして、これまでのように県外から講師を呼ばず、会員である盲ろう者や通訳介助者がもっと前に出て、各地で小規模な講演会を開催したいです。寝起きの珈琲をどうやって淹れているのか、どんなときに通訳、介助が必要になるのかなど、日々の暮らしをありのままにお話しすることで、まずは盲ろう者をもっと身近に感じて頂けたらと思います。

また、高齢のため介護が必要になった盲ろう者のため、気心の知れた仲間や支援者に囲まれて安心して過ごせるグループホームを開くことが私たちの夢です。

応援パートナーの皆様にメッセージをお願いします。

私たちは、JR 和歌山駅前の美園商店街内で「さをり織りアトリエ Heart To Hand」を運営しています。ここでは一般の方と盲ろう者が思い思いにさをり織りを楽しむことができます。応援パートナーの皆様お一人おひとりに御礼を申し上げて、さをり織りもぜひ体験していただきたいので、お時間ある方はどうぞお越しください。

今年度中には同じく美園商店街内にある「アートサポートセンター RAKU」にて、さをり織りの展示会も計画しています。

information
特定非営利活動法人和歌山盲ろう者友の会
〒640-8331 和歌山市美園町 5 丁目 5-1　電話　073-498-7756
メール　morosya@jimotoryoku.jp　HP　http://jimotoryoku.jp/morosya/

地元力財団 わかやま地元力応援基金
640-8331
和歌山市美園町 5-6–12（みその商店街東通り）
Tel.073-428-0011　Fax.073-428-0012　URL www.jimotofund.com

取材：出原敬介
編集：児玉夏希